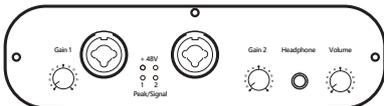


Audiolink III

USB オーディオインターフェース

取扱説明書



はじめに

安全上のご注意～必ずお読みください～

- 表示された電圧でご使用ください。表示以外の場合、火災、感電、破損の原因になります。
- 本機の裏ぶたやカバーを開けたり、分解、改造をしないでください。火災、感電、破損の原因になります。修理はお買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 本機は湿気の多い環境、高い温度の場所、日光が直接あたる場所での使用は避けてください。
- 長い時間使用しない場合は電源を切り、充電電池をとり外してください。
- ラジオまたはテレビの近くでは受信する電波に影響を与える場合があります。これらの機器とは十分な距離を取ってご使用下さい。
- 火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害に関して、当社は一切責任を負いません

本取扱説明書は大切に保管してください。

イントロダクション

この度は、MIDITECH Audiolink III をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

Audiolink III はファンタム電源供給可能なコンボジャック入力端子を2系統もつ、USB オーディオインターフェースです。

USB 接続で DAW などの音楽制作ソフトウェアにマイクやギターなどを接続して録音できるほか、コンピューターのオーディオを高音質で再生することが可能です。また、オンラインミーティングにおいても、マイクやモニタースピーカーなどを増設することができますので、コンピューターに内蔵のマイクやスピーカーより高音質でオーディオのやりとりが可能です。ヘッドフォン端子や、ダイレクトモニタリングを実現するモニタースイッチも装備。背面にもオーディオジャックの入力端子を装備するなど機能面も充実しています

また、ダイレクトモニタリング時にモニターのスtereo/モノラルを切り換えることも可能。コストパフォーマンスにも優れたインターフェースです。

主な特徴

- クラスコンプライアンス対応 USB オーディオインターフェース（ドライバーソフトウェアインストール不要）
- Windows 10、MacOSX 対応（10.3.9以上）
- 最大サンプリングレート 48kHz
- ビットレート 16bit
- XLR と Hi-Z 入力端子を2系統装備（フロント）
- +48V ファンタム電源供給可能
- リアパネルにライン入力端子（L/R）を装備
- ヘッドフォン端子を装備
- ダイレクトモニタースイッチを搭載
- モニター側のステレオ/モノ切り換えが可能
- USB パスパワー

仕様

- | | |
|--------------------|---|
| ■ 対応ドライバ | クラスコンプライアンス対応 |
| ■ 量子化ビット数 | 16bit AD/DA |
| ■ 対応サンプリングレート (Hz) | 8,000、9,600、11,025、12,000、16,000、22,050、24,000、32,000、44,100、48,000 |
| ■ 周波数特性 | 10Hz ~ 20kHz ± 1dB (44.1kHz)、10Hz ~ 22kHz ± 1dB (48kHz) |
| ■ ステレオ出力 | ダイナミックレンジ: >95dB (標準、-60dB 入力、A 特性)
S/N 比 >95dB (標準、A 特性)、全高調波歪み率 -90dB (標準) |
| ■ マイク入力 | ダイナミックレンジ: >90dB (標準、-60dB 入力、A 特性)
S/N 比 >90dB (標準、A 特性) |
| ■ INST/LINE 入力 | ダイナミックレンジ: >90dB (標準、-60dB 入力、A 特性)
S/N 比 >90dB (標準、A 特性) |
| ■ クロストーク | -77dB (0dB、1kHz) |
| ■ LINE 入力調整範囲 | 最大 +40dB |
| ■ LINE 出力レベル | -10dBV (標準)、+1.7dBV (最大) |
| ■ 寸法、重量 | 17.3 x 10.8 x 5 (cm)、0.56kg |
| ■ 付属品 | USB ケーブル、取扱説明書 |

保証書について

本製品の保証期間は、製品ご購入の日から1年間です。

保証期間内に取扱説明書の注意事項にしたがった正常な使用状態で本製品が故障した場合には、無償での修理（または交換）をいたします。なお、保証期間内であっても次に該当する場合は有償修理となります。

- ① お客様の不意当取扱いによる故障の場合
- ② 故障の原因が当社の責に帰さないとき
- ③ 本製品の本来の使い方以外で使用の場合
- ④ 火災・天災・第三者による行為などによる故障・損傷
- ⑤ 誤った接続による故障及び損傷
- ⑥ ご購入後の輸送、移動、落下などによる故障・損傷

故障、修理等のご相談ならびに各種サポートにつきましては、弊社サポートサイトよりご連絡下さい。

サポートサイト

http://www.fineassist.jp/support/contact_support/

QR コード



保証書	
製品名	MIDITECH Audiolink III
お買い上げ日	年 月 日
保証期間	お買い上げ日より1年間
お客様情報	住所
	氏名
	TEL _____ e-mail _____
購入店	

MIDITECH 日本総代理店
〒461-0004 名古屋東区葵2-3-13 みねビル 3F
株式会社ファインアシスト
www.fineassist.jp

各部の名称と機能

① XLR マイク / INST 入力 1

チャンネル 1 (ステレオ使用時は L) のコンボジャック入力端子です。Phone ケーブルを接続する場合は中央部分に接続して使用します。この場合、Hi-Z 入力となりますので、エレキギターなどを接続する際にご利用ください。XLR ケーブルでマイクと接続した場合は、マイク入力として使用できます。なお、+48V のファンタム電源が必要なコンデンサマイクを使用する場合には、必ず XLR ケーブルを使用して下さい。

② Gain 1 ノブ

チャンネル 1 の入力ゲインを調整するノブです。背面の Line In 端子 L も共通で調整できます。

③ XLR マイク / INST 入力 2

チャンネル 2 (ステレオ使用時は R) のコンボジャック入力端子です。基本仕様は XLR/INST 入力 1 と同じです。

④ Gain 2 ノブ

チャンネル 2 の入力ゲインを調整するノブです。背面の Line In 端子 R も共通で調整できます。

⑤ +48V LED

マイク入力 (XLR) にファンタム電源を送っているときに点灯する LED です。背面の +48V-1 または +48V-2 オフ / オンスイッチで切り換えます。

⑥ ピーク / シグナル LED

チャンネル 1 およびチャンネル 2 の入力信号ならびにピークレベル表示 LED です。信号が入力されると緑色に点灯します。入力ゲインが高すぎて歪んでいる場合には赤く点灯しますので、接続した機器側の出力音量を下げて下さい。(②および④のゲインを下げずとも、小さな入力でも歪みます。機器側の音量とゲインのバランスをとってお使い下さい。)

⑦ ヘッドフォン端子

標準プラグのステレオヘッドフォンを接続する端子です。背面の Line Out と同じ音を聞くことができます。

⑧ ボリュームノブ

背面の Line Out およびヘッドフォンの音量を調整することができます。

⑨ USB 端子

コンピューターと接続するための USB 端子です。付属の USB ケーブルでコンピューターと接続して下さい。

⑩ チャンネル 1 +48V オフ / オンスイッチ

前面のマイク入力 (チャンネル 1) にファンタム電源を送るスイッチです。オンにすると、前面⑤左側の LED が点灯します。

⑪ チャンネル 2 +48V オフ / オンスイッチ

前面のマイク入力 (チャンネル 2) にファンタム電源を送るスイッチです。オンにすると、前面⑤右側の LED が点灯します。

⑫ モニターオン / オフスイッチ

入力端子に接続しているマイクや楽器の音を直接モニターするかしないかの切り換えをするスイッチです。DAW などのソフトウェアでも録音時にモニターを遮断することが可能ですが、オーディオインターフェースのバッファサイズ設定によっては、モニター音が若干遅れる場合があります。演奏がしにくい場合があります。そのような場合には、このモニタースイッチをオンにして入力したマイクや楽器の音をダイレクトに聞く演奏がしやすくなります。このようなモニター方式をダイレクトモニタリングと呼びます。なお、ダイレクトモニタリング時は DAW からのモニターをオフにしないと、モニター音が二重になりますので注意が必要です。

⑬ ステレオ / モノ 切り換えスイッチ

ダイレクトモニタリング時に、入力した音のモニター音をステレオにするかモノラルにするかを切り換えるスイッチです。チャンネル 1 の方がセンターを接続して録音する場合、ステレオではモニター音がわからしく聞こえますが、モノラルにするとも中央から聞こえるため演奏しやすくなります。また、シンセサイザーなど、ステレオ音を接続している場合にはモニターもステレオとして使用することをお勧めします。

⑭ ラインアウト端子

AudioLink III の出力端子です。Phone ケーブルでモニターズピーカーなどに接続して使用します。出力される音はヘッドフォン端子と同じになります。

⑮ ラインイン端子

LINE 出力レベルの電子楽器などを接続するための端子です。入力レベルの調整は前面②および④のゲインノブで行います。なお、前面の入力端子と同時に使用すると、両方の音が入力されますが、音質バランスは取れませんので、接続する機器側の調整を行って下さい。

コンピューターとの接続

コンピューターとの接続は付属の USB ケーブルでコンピューター本体と接続するだけです。Mac Book Pro など一部のノート型コンピューターでは、USB 端子が Type-C のものがありますので、Type-A への変換などを使用して接続して下さい。

AudioLink III はクラスコンプライアンスに対応しているため、コンピューターに特別なドライバソフトをインストールしなくても、OS 標準のドライバで利用可能です。

Windows 10 での設定

コンピューターの音を AudioLink III から出力する場合、スタートメニュー>設定>システム>サウンドを開き、出力の部分にある「出力デバイスを選択して下さい」のプルダウンから「スピーカー (USB Audio CODEC)」を選択して下さい。AudioLink III に接続したマイクなどを使ってコンピューターに録音する場合には、入力の部分にある「入力デバイスを選択して下さい」のプルダウンから「マイク (USB Audio CODEC)」を選択して下さい。



Mac OS での設定

コンピューターの音を AudioLink III から出力する場合、システム環境設定>サウンドを開き、出力のタブをクリックして「サウンドを出力する装置を選択:」から「USB Audio CODEC」を選択して下さい。AudioLink III に接続したマイクなどを使ってコンピューターに録音する場合には、タブをクリックして「サウンドを入力する装置を選択:」から「USB Audio CODEC」を選択して下さい。



DAW での設定 (例: Cubase)

DAW ソフトウェアを使用して録音や再生を行う場合は、OS とは別に DAW 側のオーディオ設定を変更する必要があります。DAW のオーディオドライバ (ASIO ドライバ) の設定画面で、USB Audio CODEC を選択して下さい。

なお、ソフトによってはドライバを選択しただけでは、入出力が有効にならない場合があります。右の図のように Cubase ではコントロールパネルボタンを押して ASIO ドライバを表示させ、入力、出力ともに有効となるようチェックボックスにチェックを入れます。さらにオーディオマネージャの入力および出力のタブで、オーディオデバイスおよびデバイスポートを選択して使用します。

また、オーディオ出力時に音が途切れるなどの症状が出る場合には、デバースettingsのバッファサイズ (Buffer Size) を 512 や 1024 などの大きな値 (右の図では 256 Sample) に変更してください。



DAW などの細かいオーディオ設定は、各 DAW の取扱説明書をご参照ください。